

大規模油流出への準備体制の整備・充実

Nick Quinn
General Manager



Tel: +61 3 5272 1555

Fax: +61 3 5272 1839

E-mail: amosc@amosc.com.au

Internet: www.amosc.com.au

AMOSCが、暦年でも、会計年度でも、2年目に入った今、原油価格はバーレル当たり40米ドルを下回り、油流出に対する効果的な準備の維持という課題が、対応の専門家を必要とする石油業界及びこの業界の操業認可を支える流出対応組織と請負業者とにのしかかっています。対応組織である私たちにとって、大規模な油流出事故以後のこの5年間は余裕のない時期でした。請負業者や対応組織の関心や支援を維持するモチベーションが一般にかなり衰えてしまったからです。しかし、準備に対する資金確保の問題は規制やコンプライアンス体制にも関わってきます。2015年のデロイトの報告書「*Get out of your own way: Unleashing productivity* (やり方を変えろ、生産性を解き放て)」は、興味深い結果を報告しています。オーストラリア（全部門）における規制順守のためのコストは、控えめに計算しても年2500億オーストラリアドルに上っており、特に石油・ガス部門は各種コンプライアンスのために大きな負担を強いられています。この報告書では、2500億ドルのうちの10%を節約すれば、国民所得の1.6%に当たるとしています。オーストラリアは2014年、無駄をなくし、規則作成者やコンプライアンス部門を合理化するという改革を開始しました。石油・ガス部門もある程度合理化されましたが、政府がさらに適切な合理化を行えば、スケールの面で効率化をもたらし、厳しい時期に財務の効率化に努めなければならない石油・ガス業界の流出対応の側面でも重荷を軽減できる余地が残っています。

オーストラリア海洋油流出センター（AMOSC）はこの1年間、オーストラリアの石油・ガス業界の油濁対応組織（OSRO）として、この厳しい時期に会員企業にできるだけサポートを提供するため、みずから4つの質問を投げかけてきました。



1. 現在の状況はどこが違うのか？
2. 私たちには油流出に対する効果的な準備を維持する能力があるか？
3. これまでの30年の歴史を振り返れば、答えのいくつかが見つかるだろうか？
4. 費用便益をさらに効率化し、最大化するためには何ができるだろうか？

これまで長年の間、油濁対応組織は資金が「豊富にあるか、まったく足りないか」という極端な状況にさらされてきました。大規模な油流出事故の直後には、油濁対応組織が事故に対して最善の対応を行う能力を構築できるよう、油濁対応組織に多額の投資が行われ、関心も寄せられました。AMOSCに対しても、モンタラ油流出事故の直後にこのような投資が行われたので、オーストラリア政権はモンタラとマコンドの海洋油流出事故への対処を成功裏に行うことができました。グローバルな実績と同様に、この投資によって、企業に対してもこれまでより多くの訓練や教育の機会を提供し、演習や準備の計画や相互援助も強化し、流出事故に対応する訓練と経験を積んだ人材を増やし、また油で汚染された野生生物への対応や海底介入等の広範な対応能力も強化することができました。これらの投資は主に上流の探査・生産部門が提供したもので、下流の部門からの支援と投資は以前のレベルで維持されていました（設問1）。しかしながら、おそらくこの5年間より前の時期にはすでに、オーストラリアは海上輸送に基いた対応を行うことのできる油流出対応機能を構築していました。これまでの歴史を振り返ると、当初のOPRCモデルは初期の準備と対応のモデルを構築するのに十分でしたが、最近の投資によってオーストラリアではさらにその機能と能力を強化できているのです（設問3）。しかし、このような機能と能力は原油あるいは石油製品（グループII-V）の対応のために計画されたものです。石油探査・生産のタイプが変化するにつれて、オーストラリアは今後、ガスへの準備と対応のニーズに注目する必要があります。これは油流出への準備と対応に言及しているOPRC 90の意図（第2条定義1）では扱われていないものであり、おそらくは油流出への準備と対応だけを扱っているOPRC 90の限られた範囲に疑問を投げかけるものと言えます。

見解 1 この5年間、上流の業界は流出への準備と対応の能力を強化してきました。原油価格の下落はこのような能力の強化のための資金調達力に影響を与えており、適切な費用効率で現在の能力を維持することが課題となっています。油流出対応の当初の立案は海運業界によって行われました。したがって、「最近の」投資が上流の業界から行われたことは、流出対応の能力を引き続き強化するために大いに歓迎されています。

流出対応に対する効果的な準備を継続できるかどうかという AMOSC の第 2 の設問には、沖合での対応及び沿岸／輸送ベースの対応のニーズとして考えることができます。2 つの



部門はある程度密接につながっていますが、それぞれの部門からの資金はずっと一進一退を繰り返しています。たとえば、オーストラリア沿岸における石油製品の輸送の頻度とトン数は過去 5 年間で増加し、現在の原油価格でも下流の業界はよい状況にあります。このような状況下で、石油業界はオフショア部門の準備の機能を拡大させてきました。機能の拡大は上流、下流の両部門のプラスになり、それまでは不足していた緊急事態に備える追加能力を提供することになりました。しかし、この追加能力を維持する鍵は財政投資であり、サービスの強化には追加資金が必要です。現在の低い原油価格を考慮した場合、資金を捻出するためには、何らかのサービスの統合が必要になります。ここしばらくの間、オーストラリアでは、油処理剤の空中散布（365 日 24 時間体制の機能を維持するため、業界と政府が同額を拠出）や漂流予測モデルなどのプロジェクトに業界全体で資金を拠出するなど、戦略的なプロジェクトへの公平な資金拠出が行われてきました（設問 4）。ごく最近では、オーストラリアの石油業界は、以下のようなプロジェクト／機能に共同で資金拠出することに非常に関心を持っています。

業界全体の活性化と対応準備を証明するための合同演習

- 科学的監視
- 大気の質の監視
- 水質監視
- 遠隔地の通信
- 海岸線の労働対応
- 海中軌跡監視
- 遠隔環境検知

共同で資金拠出をして、個別の資金拠出を減らすという価値ある提案がなされる一方で、これまで節約した費用を現在の準備の継続に再投資するとともに、変化する部門のための将来の準備に再投資するという対案も出されています。

見解 2 共有の対応資源の共同での資金拠出で得られた効率は、現在および将来の準備のために再投入する必要があります。対応資源を共有する前に、この点をすべての関係者が合意しなければなりません。

「将来も効率を継続する」という課題に対処するため、オーストラリアは様々な要素に注意しながら、「現在および将来の準備に対する資金拠出」を重視して行きます。これらの



要素には、現在の原油価格、下流の海上輸送業務の増加、原油生産からガス生産への相対的变化、及び油濁対応組織が業界のニーズに引き続き応えることがあります。業界のニーズに引き続き応えていくためには、資金と支援が必要です。オーストラリアにおける流出への準備と対応に何人の常勤要員（100人未満）が関わっているかという単純な分析を行うことで明らかにされるでしょう。しかし、流出のリスクは減少してはいません。グローバルなチームが地域／国のチームに取って代ることはありません。国にとっても重要である流出という問題を政府が考慮するとき、外部委託することには抵抗があります。流出のリスクに対する支援のために、オーストラリアでは均質的な機能が必要とされています。ですから、議論はまた、流出への準備に対する資金の確保と支援の取決めにおいて、いかに効率を追求するかということに戻ります。2016年を通じて、そして、原油価格がより利益をもたらすレベルに戻るまでは、このような議論がますます活発になることでしょう。

2014年1月、石油連盟のシンポジウムにおいて、AMOSCは次のように問いかけました。即ち「モンタラ油井とマコンド油井の流出事故以後、最近の4年間における飛躍的な変化は海洋油流出への対応と準備の問題に対するエネルギーを再活性化させましたが、ここで、当然の疑問が浮かんできます。このようなモチベーションとエネルギーはいつまで続くでしょうか？」。

原油価格の下落によって、私たちは今、石油・ガス部門が流出への準備と対応に資金拠出を継続してくれるという保証を求めています。最近の歴史を振り返ってみると、30年前に流出への準備と対応の部門が作られ、最近の5年間で上流部門によって適切に資金が補充されてきたことが分ります。現在のオーストラリアでは、準備の範囲内で再利用に資金を使えるようにするために共同で資金を貯めようという動きがあります。

